

# 広島都市圏



広島市北西部の山陽五日市イオンターミナル近く、五月が丘団地(佐伯区)に隣り立つ、パンフレットを手に各住居のまき込み入たちが目を付いた。  
モザルハウス見学の  
いや、でも生活感がある家だ、白布を開放してキャットシートする「Maison」(展示会)(二十三日)が、昨年に新築開かれていたという。団地内を巡って見た。

三丁目の坂道を上っている、カラフルなバッグを袖干しして下る下けた住宅を見つけた。緑、黄、赤、黄色。かまは、荷物のひもで纏まれている。この家で工芸多める松浦朝子さん(58)の作品だ。

彩り鮮やかなに纏われて、近くの主婦広木恵美さん(56)がペラペラと上へ上がった。「墨子」のバッグ用に、黒と白のツートンカラーのものを買い求めた。二人はそのままペラペラで、

軒先にかこバッグ、応接間でニット／庭先のギターに合わせ聴衆も合唱

## 行きつ戻りつ 歩くのだ

藤村 潤平、田沼 規充、永里 真弓

広島県人 森田会  
www.wakurorori-district.com/  
平和通り歯科  
口腔外科  
249-2002



「五月が丘」に於いて、松浦さん宅の入り口に並んだバッグを手に、歩行人が次々と入ってきた。(撮影・田沼規充)

### ご近所新発見交流生む

「五月が丘まるごと展示会」(広島市佐伯区)

「タイム、松浦さんが「もしかしなすいた」とも団地に三十年近ゆつくり顔ができて楽しい」とほめて、あの角に住んでいらっしやるく住むが、言葉交わすのは初めのこと」と指さすと、広木さんが「このよう、「気軽に家を訪問され



中島さんは、三軒ほどを交際のの、元会のおかけ」と隣の舞台を喜ぶ顔で手袖ミニットを展示した。昨年の展示をききながら教室へ通い始めた三日の五軒石川生子さん(47)の作品もあった。

石川さんが製作したのは、ビートのなせだろや、楽器人の一人、坂田地子さんに似て、三丁目の船組工の、アトリエを助けた。「展示だけが行動的じゃない



五月が丘団地は、一九七二年に造成開始、多くの世帯で千奇くか終わり、夫婦二人や高齢者の一人暮らしが目立つ。人口は七千三百人、ピークだった二十年前から千三百人減った。「団地」に否を取り

「ご近所付き合いの輪は、二丁目の中島さん(56)家でも広がっていた。観念物教室を自宅で開く



来場者との会話を楽しむ坂田さん(右)。テーブルの隅の隅には、夫道さんの手作り